

令和5年度：放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和5年12月28日

事業所名 武蔵野市放課後等デイサービス パレット

チェック項目		工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	利用児の生活の特性に合わせてパーティションで活動室を区切り環境を設定している。状況に応じてパーティションを開けて活動室を広く使用できるよう設定している。	利用児数の増加に応じて、活動室内の環境設定の見直しを行う。
	② 職員の配置数は適切であるか	職員は制度上の基準以上に配置されている。利用児の利用状況に応じて、法人内他事業からのサポートや併設する学生寮等から学生アルバイトを採用するなどにより手厚い支援を行っている。	学生アルバイトは学年によって授業時間が異なる為、都度調整をしている。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	施設内の手すりのぐらつき等設備についてメンテナンスを行っている。車椅子のねじゆるみなどの定期的な安全点検を半年毎に行っている。	日々職員が確認していくことで、安全に利用できるよう配慮している。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	業務全般については、月に1度会議を設けている。利用児への支援については、日々の振り返りを行うと共に月に1度の個別支援計画に沿って話し合いを行っている。必要に応じて支援会議の回数を増やしている。	業務担当については、様々な職員が共通理解できるよう、マニュアルを作成し、仕事の引継ぎを行っている。支援会議に参加できない職員に対しては会議録と共に口頭でも補足説明をしている。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向けアンケートを基に、災害発生時の対応、感染症対応については配布している。緊急時対応マニュアルや防犯マニュアルは事業所内で上記2点を含め掲示している。災害に対する訓練に関しては年2回実施しているが、利用曜日によって参加できない利用児もいる為、活動中に避難器具の経験ができるよう設定している。	現状、すべて実施はできていない。保護者からの意見を参考に、業務改善に取り組んでいく。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	当法人のホームページに公開している。	引き続き行っていく。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価は行っていないが、指定管理者制度を導入している公の施設であるため、武蔵野市の「公の施設」モニタリングを受け、業務改善に活用している。	第三者評価の実施については今後検討する。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	オンライン会議やWeb研修を利用して研修等に参加した。研修に参加した職員が、現場にて伝達研修を行うことで、内容を共有している。学校公開が再開されたことで、職員が出向き学校生活の様子を見学している。学校での様子や学校教師からの情報を事業所内で共有している。	今後も研修内容を職員間で共有していく。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	支援会議を設けることで日々の振り返り、課題を話し合っている。また、保護者の思いを取り入れながら、各専門職の視点を交えて個別支援計画を作成するよう心掛けている。	個々の成長、特性に合わせた支援を行えるよう個別支援計画を作成し、見直していく。
適切な支援の提供	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	現在は標準化されたアセスメントツールは使用していない。放課後等デイサービスガイドラインの項目に沿って、アセスメント項目で評価をしている。	引き続きガイドラインに沿ってアセスメントを行う。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	行事や活動に対して、職員間で話し合い内容を共有しながら進めている。	引き続き、職員間で話し合いながら個々に合わせた活動を行えるよう検討していく。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	普段の生活だけでなく、毎月に行事や活動を設定している。長期休み時はプールや外出活動として児童館訪問やミュージカルの観劇等、普段体験できないことも取り入れている。	職員や関係機関から情報を取り入れながら、様々な経験ができるように計画していく。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	土日祝日は休業日としている。平日、長期休暇は1日の流れを視覚的にわかりやすく提示したことで、生活の見通しに繋がっている。個々の課題については主に午前中の時間帯に設定して取り組んでいる。	引き続き計画していく。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	月毎に集団活動を取り入れることで、集団生活や友達にも意識が向けられるよう配慮している。	引き続き計画していく。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	毎日ミーティングの時間を設けて確認している。出勤時間が異なる職員には出勤した際に予定を伝えている。	引き続き行っていく。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	その日の特記事項、職員配置について毎日行っている。送迎担当には戻った際に報告するか、勤務時間が過ぎるようであれば翌日に報告、もしくは記録を確認している。	引き続き行っていく。

	チェック項目	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	毎日記録をとっている。保護者や学校からの連絡、引きつぎ事項も記載する事で漏れがないよう配慮している。個別支援計画や支援会議の際に記録を活用している。	連絡帳アプリを導入したが、日々の記録は効率を考えて手書きで行っている。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	個別支援計画の更新に限らず、月に一度以上、支援会議を開き支援の振り返りや共有を行っている。	個別支援計画の見直しが必要になった場合には行っていく。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	利用児の特性に合わせて、様々な活動を組み合わせ、支援している。	利用児の興味関心に限らず、様々な方向からアプローチをかけていく。
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	相談支援事業所のサービス担当者会議はまだ行われていない。新規利用児を受け入れる際、保護者の同意を得られた場合に限り相談支援事業所より引継ぎを受けている。	機会があれば積極的に参加したい。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	学校送迎時に確認できることは都度行い、時間をとって確認する必要があることは直接電話をして確認している。	引き続き行っていく。
	㉒ 医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	必要に応じて主治医と連絡をとることを、受入時に保護者に了解を求めている。また、医療的ケアの項目とは関係なく、必要があれば保護者や主治医に連絡している。	引き続き行っていく。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	保育所や児童発達支援事業所へ見学に行き、子供の様子を担当職員から伺い、事業所の環境設定の参考としている。	就学予定の子供を受け入れる場合には行っていく。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	今年度は該当する利用児はいない。	卒業して障害福祉サービス事業所へ移行する場合には、保護者の同意を得たうえで支援内容等の情報を提供している。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	同法人の児童発達支援センターの理学療法士等より、月毎の会議やモニタリングの場や支援の現場にて、利用児の特性に合わせた関わり方や福祉用具の調整などの助言を受けている。	引き続き行っていく。
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	長期休み時には近くの児童館を訪問している。そこで遊んでいる子ども達から声をかけてもらうなどの交流がある。近くの公園に出かけた際には利用している障害がない子どもとボール遊びや遊具で遊ぶ等、関わる機会があった。	引き続き児童館への訪問や公園に出かける機会を設けていく。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	自立支援協議会の住まい部会に参加職員が参加している。障害がある方の地域での暮らしに焦点を当てたサービスや支援について検討している。	法人の体制の中で、機会があれば参加していく。
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	日常の小さな変化についても連絡帳や送迎時にお伝えしている。また、モニタリング後には半年間の成長や課題と感じている事を面談にてお伝えすると共に、家庭や学校での状況を聞き取り、共通理解できるよう努めている。	今後も成長や課題について共通理解できるよう努めていく。
	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	ペアレント・トレーニングの実施には至っていないが、状況に応じて連絡をとっている。	保護者と情報交換等を行いながら継続して保護者の支援に努めていきたい。
保護者への説明責任等	⑳ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	利用契約時に保護者に対して支援内容の説明を丁寧に行うよう努めている。利用者負担については制度変更時に説明・同意を得て、署名を頂いている。	分りやすい丁寧な説明を心がけていく。
	㉑ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	現在のところ子育ての悩み等に対する相談を頂く機会はないが、医療的ケアの面で保護者から報告を受けている。急な予定等で契約曜日以外にも利用したい申し出があった際には、相談、調整のうえ受け入れを行っている。	職員全員で知識やスキルの向上を図り、相談対応に努めていきたい。
	㉒ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	現在は行っていない。	保護者の意見を取り入れながら、検討していく。
	㉓ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	対応体制は整えており、契約書への記載と共に説明をしている。現在まで苦情はあげられていない。	苦情発生時は速やかに対応し、丁寧な対応を心掛けたい。また市が設置した事業所であるため、市と相談しながら苦情解決に努めていく。
	㉔ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	現在は会報等は作成していない。活動や行事についてはホームページに記載されている。また連絡帳を通して報告している。	今後、活動内容や行事、施設内の情報等の広報に努めていきたいと考えている。

	チェック項目	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	③⑤ 個人情報に十分注意しているか	利用児・保護者等に関わる文書は、すべてカギ付きの書庫に施錠保管している。また全職員に対して知れた個人情報の守秘義務の徹底を図っている。	今後も十分注意していく。
	③⑥ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	利用児とのやり取りでは、言語だけでなく絵カードの提示や表情、仕草等も含めて意思疎通を図っている。保護者とのやり取りでは、連絡帳アプリを導入し、具体的に活動の様子を伝えたり、ご家庭での様子や利用児の体調等を伺っている。	引き続き行っていく。
	③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	同施設内の老人ホーム内にて、七夕の笹飾りイベントに参加する事で、入居者や地域の小学生と一緒に交流する機会を持たせた。同施設内の高齢者から声をかけて頂いたり、信陽舎の学生がアルバイトに入って頂いたりしている。	今後、できることを検討していく。
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	災害発生時の対応としての緊急対応マニュアルや感染症対応マニュアルは保護者へ配布している。防犯マニュアルは施設全体で策定済み。また施設全体で、安全衛生・感染対策・事故防止等の各委員会を設置しており、職員の研修も行っている。	今後も状況に応じてマニュアルを更新し、周知していく。
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	利用児の避難訓練は年2回実施している。利用曜日の都合で経験に差がある為、普段の生活の中で避難器具を経験する機会を設けている。	引き続き行っていく。
	④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	新規採用者にはオリエンテーションの一環として個別に研修を行っている。事業所内でも虐待防止・権利擁護研修を行っている。	今後も研修の機会を作っていく。普段の支援の中ででてきた「小さな出来事や疑問」を会議の場で共有し、支援の見直しを行っていく。
	④⑪ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	利用児の体調不良により体幹を支えるための座位保持や車いす利用、自傷による怪我を避ける為に手を支える等、保護者へも説明・同意のうえ、個別支援計画に明記している。	引き続き、利用児の様子に応じて、身体拘束をしなくても良いよう支援を考えていく。
	④⑫ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	食事が必要な時は自宅からお弁当を持参して頂き、お茶とおやつのみ事業所で用意提供している。おやつに関してはアレルギー等の配慮が必要な方は、保護者と連絡を取るとともに必要に応じて持参して頂くようお願いしている。食物アレルギーの申告はあるが、該当食物は現在提供していない。	おやつ購入時には成分表を確認し、該当成分が入っていない物を購入する。職員が常に意識できるようおやつを保管する場所に掲示し、今後も十分注意する。今後一般に登場しやすい食物が対象となれば医師の指示を仰ぎながら対応していきたい。
	④⑬ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	事故報告、ヒヤリハット共に職員間で確認し、気を付ける点等を共有している。	引き続き行っていくことでヒヤリや事故の防止に繋げていく。